

各位

株式会社三十三総研

『猛暑が生活に与える影響に関する調査～今年の猛暑を振り返って～』 の実施について

標記の件、下記の通り調査結果を取りまとめました。

記

1. 調査の趣旨

2024年は三重県津市の年間猛暑日(35℃以上の日)が統計開始以降、過去最多の21日となるなど(9月2日時点)、厳しい暑さとなった。そのような猛暑日の増加を受け、(株)三十三総研では、個人500名(三重県在住、男・女、20代～60代の各世代100名ずつ計500名)を対象に、性別・年代別に、**最高気温が何度を超えると生活に影響が出るか、自宅や外出中の暑さ対策、猛暑が消費活動に与える影響**などを明らかにすることを狙いとし、WEBを通じた個人アンケート調査を実施した。

2. 調査方法

- 調査対象者 三重県在住、男・女、20代～60代の各世代100名ずつ 計500名
- 調査方法 インターネットによる調査
- 調査時期 2024年8月30日～9月3日
- 回答状況 有効回答500名
- 設問 全4問

年齢	男性	女性	計
20代	50	50	100
30代	50	50	100
40代	50	50	100
50代	50	50	100
60代	50	50	100
計	250	250	500

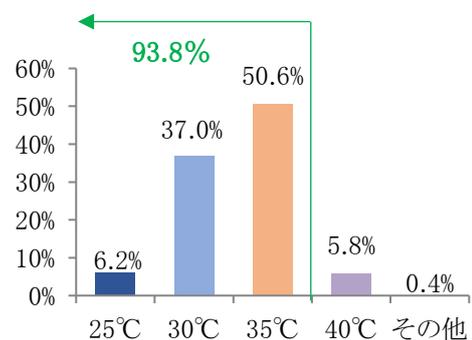
3. 設問内容

- Q1 最高気温が何度を超えると生活に影響が出ると感じるか
 Q2 自宅での夏の暑さ対策として行っていること
 Q3 外出中の夏の暑さ対策として使用しているもの
 Q4 今年の夏の猛暑によって変化した消費活動

4. 調査結果のまとめ

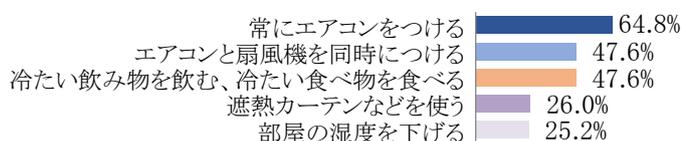
Q1・最高気温が何度を超えると生活に影響が出ると感じるか

「25℃」が6.2%、「30℃」が37.0%、「35℃」が50.6%、「40℃」が5.8%、「その他」が0.4%。「30℃」を超えると4割超、「35℃」を超えると9割超が生活に影響が出る」と回答。【Q1】



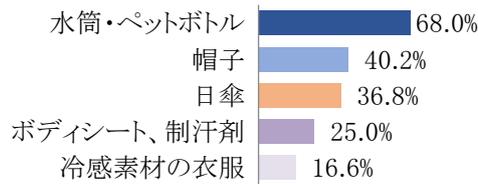
Q2・自宅での夏の暑さ対策として行っていること

「常にエアコンをつける」が64.8%、「エアコンと扇風機を同時につける」、「冷たい飲み物を飲む、冷たい食べ物を食べる」が47.6%と上位に。【Q2】



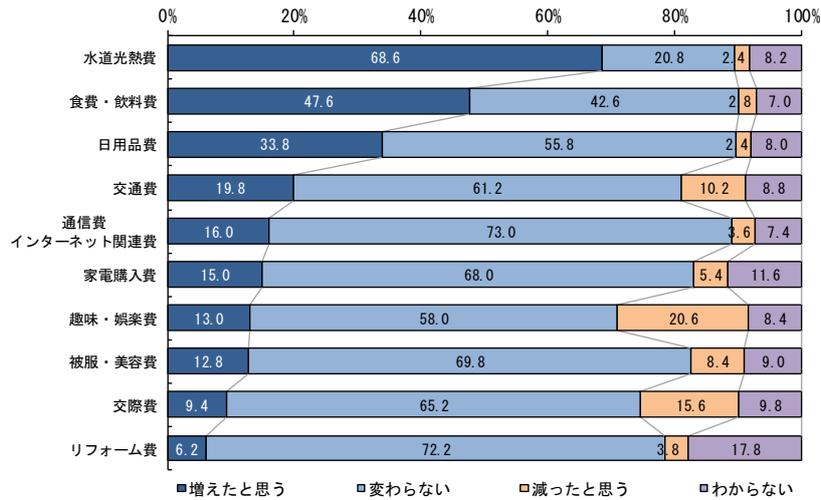
Q3・外出中の夏の暑さ対策として使用しているもの

「水筒・ペットボトル」が 68.0%、「帽子」が 40.2%、「日傘」が 36.8%と上位に。【Q3】



Q4・今年の夏の猛暑によって変化した、変化しなかった消費活動

増えた消費は「水道光熱費」68.6%、変わらない消費は「通信・インターネット関連費」73.0%、減った消費は「趣味・娯楽費」20.6%がそれぞれ最も多い回答となった。【Q4】



5. 見解

今回の調査では、猛暑が人々の行動に影響を与えており、消費活動も変化していることがわかった。

35℃を超えると**全体の9割超の人々が生活に影響が出る**と回答し、**暑さが人々の生活スタイルや消費活動に大きな影響を与えていることが明らか**となった。

自宅での夏の暑さ対策について、**6割強が「常にエアコンをつける」と回答した**ほか、5割弱が「エアコンと扇風機を同時につける」、「冷たい飲み物を飲む、冷たい食べ物を食べる」といった対策を行っていることがわかった。2024年の三重県津市の猛暑日は21日と、前年の6日を15日、さらに1889年の統計開始以降、過去最多だった2013年の16日を5日上回ったことから、**エアコンや扇風機などの家電製品やアイス、清涼飲料水などの飲食料品といった暑さ対策商品の売上が増加した可能性**がある。

外出中の夏の暑さ対策として使用しているものについては、**7割弱が「水筒・ペットボトル」と回答した**ほか、4割程度が「帽子」、3割強が「日傘」を外出中の暑さ対策として使用していることがわかった。男女差の大きいのは日傘で、女性は6割弱、男性は2割弱が暑さ対策として使用していると回答しており、**男性の約6人に1人が日傘を使用していることがわかった**。

今年の夏の猛暑によって変化した消費活動について、**7割弱が水道光熱費に関して「増えた」と回答した**ほか、5割弱が食費、飲料費、3割強が日用品費に関して「増えた」と回答するなど、**物価高に加えて、猛暑による生活費の増加が家計の負担となっている可能性**がある。また**20代は、趣味・娯楽費、被服・美容費などの消費活動が「増えた」と回答した割合が他の年代よりも高く、猛暑が外出機会の増減に与える影響が他の年代より少ない可能性**がある。「変わらない」消費活動としては、「**通信費・インターネット関連費**」が7割を超えた。「減った」消費活動としては、「**趣味・娯楽費**」や「**交際費**」、「**交通費**」などが上位を占めており、**猛暑の影響を受け、人々の外出機会が減少した可能性が示唆**された。

猛暑は来年以降も続くと考えられ、一時的な変化に留まらず、今後も人々の行動や消費活動に影響を与えることが予想される。

6. 設問別サマリー

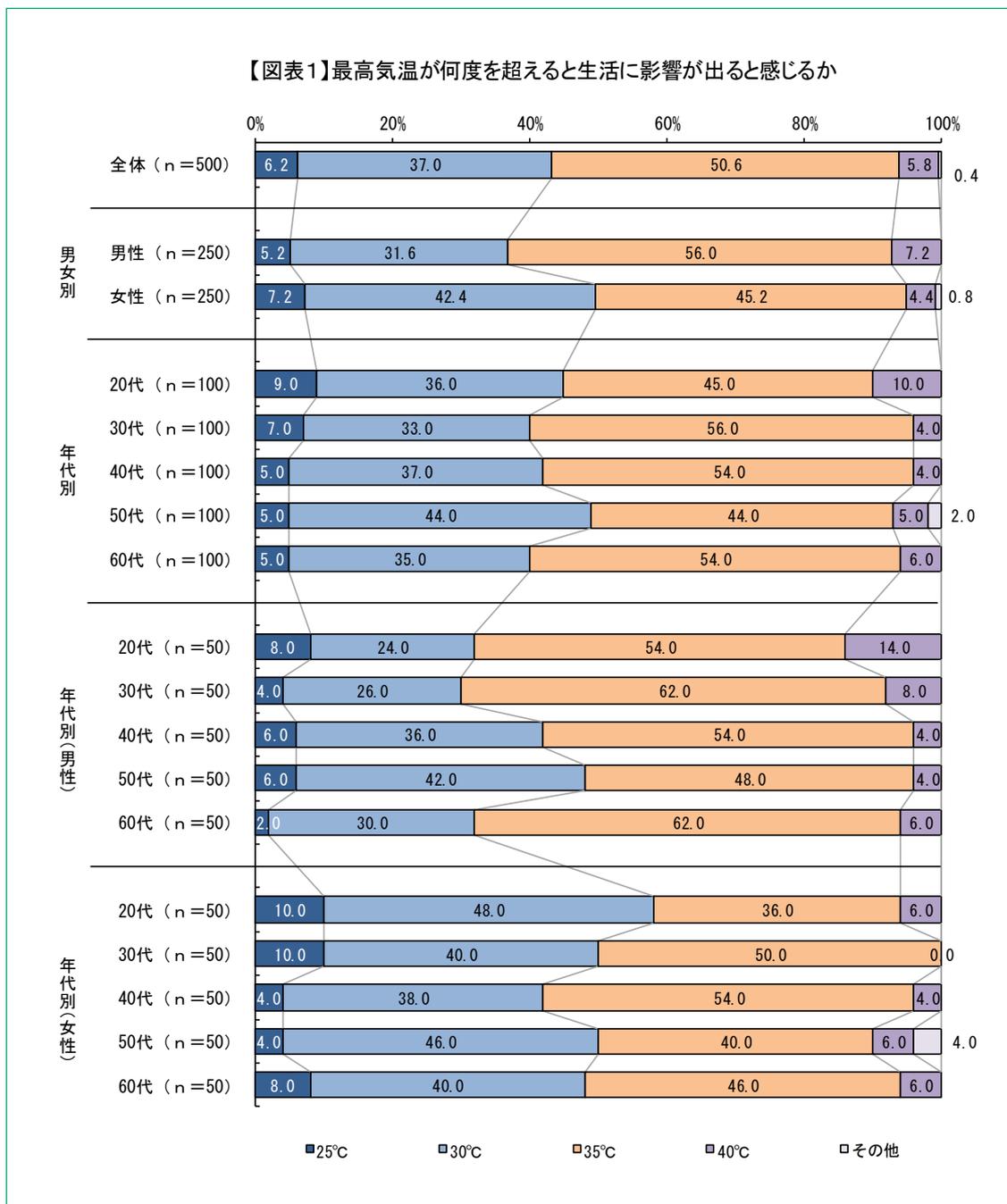
Q1 最高気温が何度を超えると生活に影響が出ると感じるか (n=500)

35℃を超えると全体の9割超が生活に影響が出ると回答

最高気温が何度を超えると生活に影響が出るかについて、**全体**では「35℃」が 50.6%、「30℃」が 37.0%、「25℃」が 6.2%と、35℃を超えると全体の9割超が生活に影響が出ると回答、猛暑が人々の生活に影響を与えていることがわかった。

男女別では、男性は 92.8%、女性は 94.8%が、それぞれ 35℃を超えると生活に影響が出ると回答した。もっとも、男性は 31.6%が「30℃」、56.0%が「35℃」を超えると生活に影響が出ると回答した一方、女性は 42.4%が「30℃」、45.2%が「35℃」を超えると生活に影響が出ると回答するなど、男女で生活に影響が出る気温に差がみられた。

年代別では、全ての年代において、35℃を超えると9割が生活に影響が出ると回答した。また、20、30代は 25℃を超えると生活に影響が出ると答えた割合が他の年代に比べて高い傾向に。



Q2 自宅での夏の暑さ対策は何ですか (n=500) ※複数回答

常にエアコンをつけるが6割強

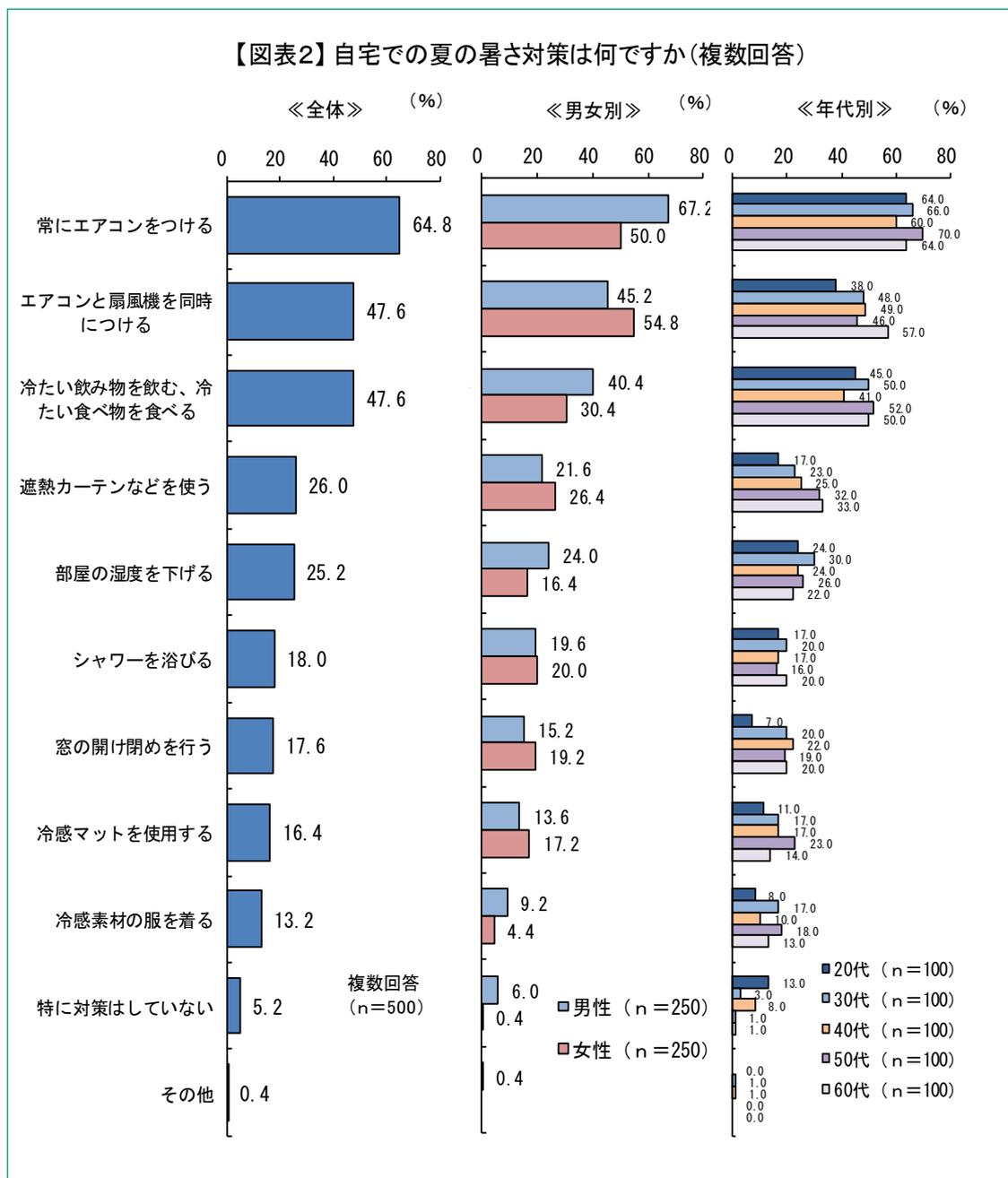
男女で実施する暑さ対策に違いみられる

自宅での夏の暑さ対策について、**全体**では「常にエアコンをつける」が64.8%と最も高く、次いで「エアコンと扇風機を同時につける」、「冷たい飲み物を飲む、冷たい食べ物を食べる」が47.6%という回答となった。

男女別では、男性は「常にエアコンをつける」が67.2%と最も高く、女性は「エアコンと扇風機を同時につける」が54.8%と最も高い回答となった。

男性はエアコンや扇風機、飲食物で暑さを和らげる対策をとる傾向がある一方、女性は同様の対策に加え、遮熱カーテンや冷感マットなどを使用した対策を行う傾向がみられた。

年代別では、全ての年代において、「常にエアコンをつける」が最も高い回答となった。また、総じて50、60代が積極的に暑さ対策を実施している傾向や年代が高いほど「エアコンと扇風機を同時につける」の回答割合が高くなる傾向がみられた。



Q3 外出中の夏の暑さ対策に使用するものは何ですか (n=500) ※複数回答

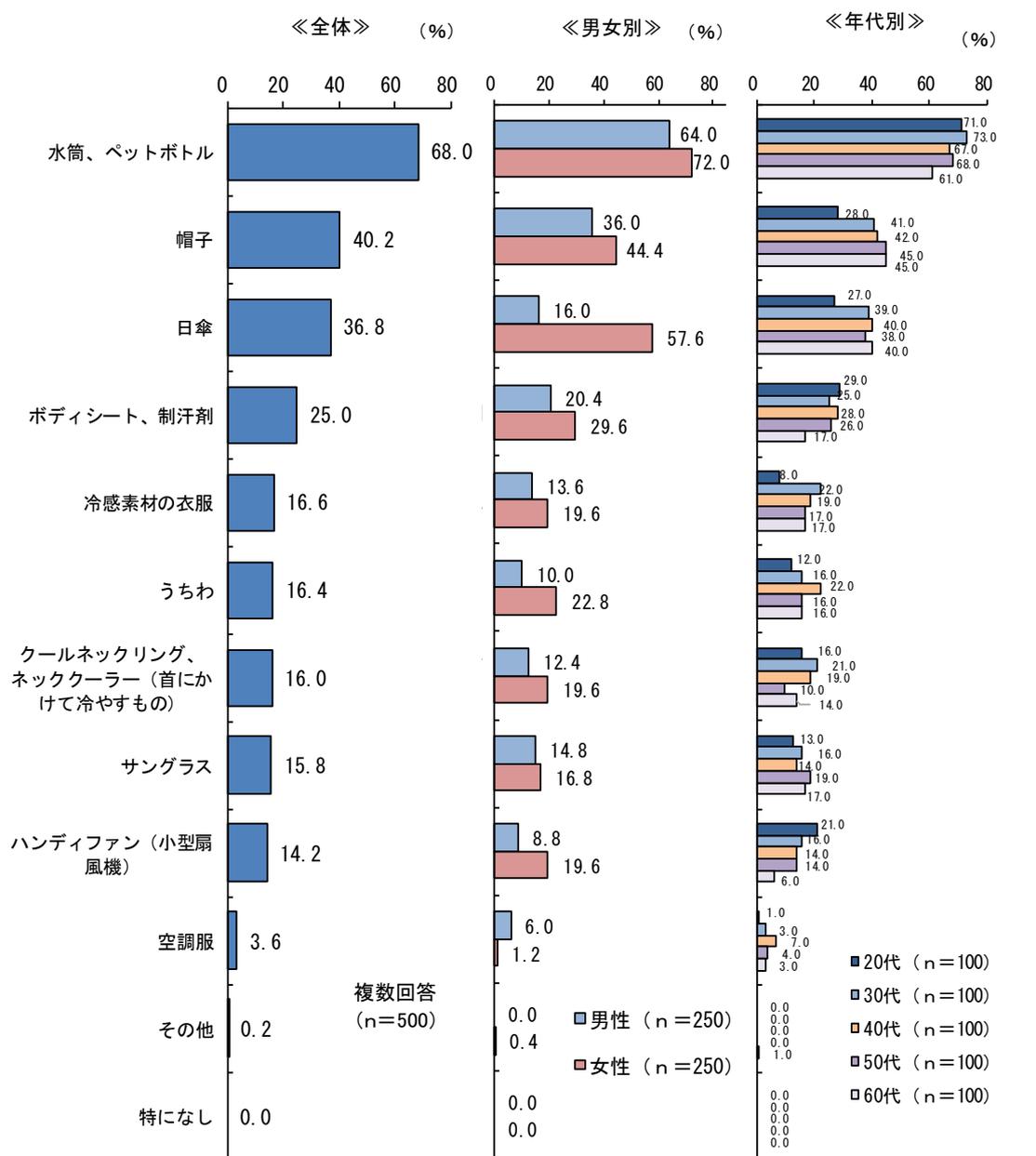
水筒、ペットボトルが7割弱で最多

外出中の夏の暑さ対策に使用するものについて、**全体**では「水筒、ペットボトル」が68.0%と最も高く、次いで「帽子」が40.2%、「日傘」が36.8%という結果となった。

男女別では、男性(64.0%)、女性(72.0%)ともに、「水筒、ペットボトル」が最も高い回答となった。また、多くの項目で女性の回答割合が男性を上回るなど、外出中には、総じて女性が男性より積極的に暑さ対策を行っている傾向が明らかとなった。特に「日傘」の使用に関する男女差は大きく、女性の57.6%に比べ、男性は16.0%と差がみられた。

年代別では、全ての年代において、「水筒、ペットボトル」が最も高い回答となった。また、「帽子」や「日傘」は年齢が高くなるにつれて使用割合が高くなる傾向がみられた。

【図表3】外出中の夏の暑さ対策に使用するものは何ですか (複数回答)



Q4- (1) 今年の夏の猛暑によって、以下の消費がどのように変化したと感じますか (n=500)

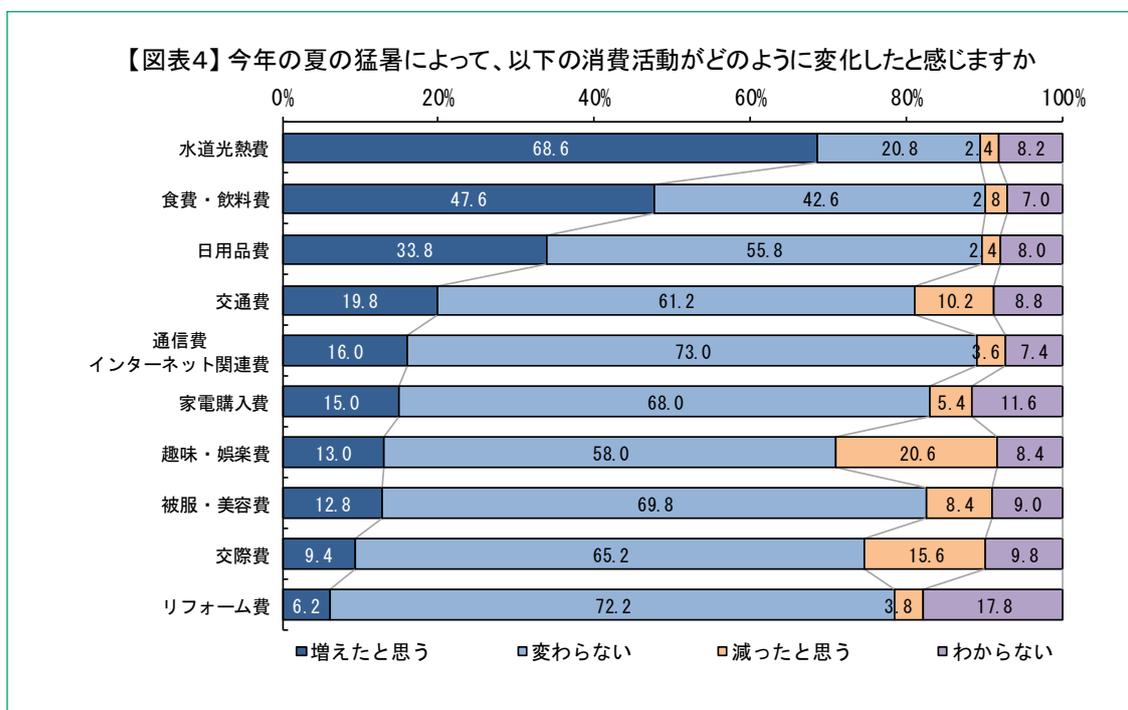
水道光熱費は 68.6%が増えたと回答

趣味・娯楽費、交際費、交通費は 1～2 割が減ったと回答

今年の夏の猛暑によって**増えた消費活動**について、「水道光熱費」(68.6%)が最も高い回答となった。次いで「食費・飲料費」(47.6%)、「日用品費」(33.8%)という結果となった。猛暑によって、エアコンなどの家電製品の使用が増えたほか、冷たい食べ物や飲み物、暑さ対策に使用する日用品の購入による消費が増えた可能性が示唆された。

今年の夏の猛暑によって**変わらない消費活動**について、「通信費・インターネット関連費」(73.0%)が最も高い回答となった。

今年の夏の猛暑によって**減った消費活動**について、「趣味・娯楽費」(20.6%)が最も高い回答となり、次いで「交際費」(15.6%)、「交通費」(10.2%)という結果となった。猛暑の影響を受け、人々の外出機会が減少した可能性がある。



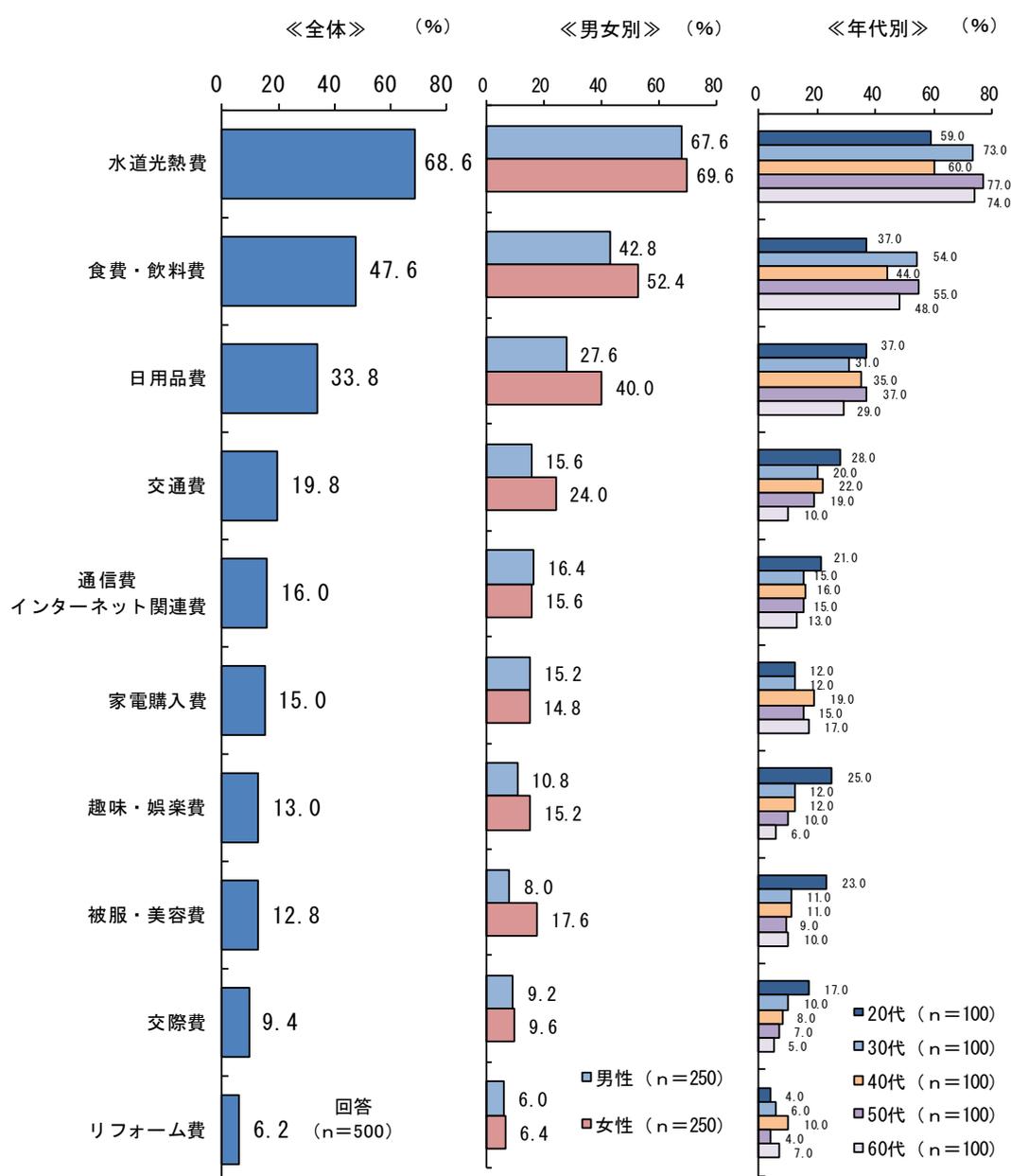
Q4- (2) 今年の夏の猛暑によって、変化した消費活動は何ですか【増えた消費活動】(n=500)

男女ともに水道光熱費が最も多く増えたと回答

今年の夏の猛暑によって増えた消費活動について、**男女別**では、男性が 67.6%、女性が 69.6%と「水道光熱費」が増えたとの回答が最も高かった。猛暑により、エアコン、扇風機などの家電製品の使用量が増えた可能性も。また、女性の方が総じて増えたと回答した割合が高い傾向となった。

年齢別では全ての年代において「水道光熱費」との回答が高い結果となった。また、20代は「趣味・娯楽費」、「被服・美容費」などの項目で増えたと回答した割合が他の年代と比べて高く、猛暑でも積極的に消費活動を行っている可能性が示唆された。

【図表5】今年の夏の猛暑によって、変化した消費活動は何ですか【増えた消費活動】

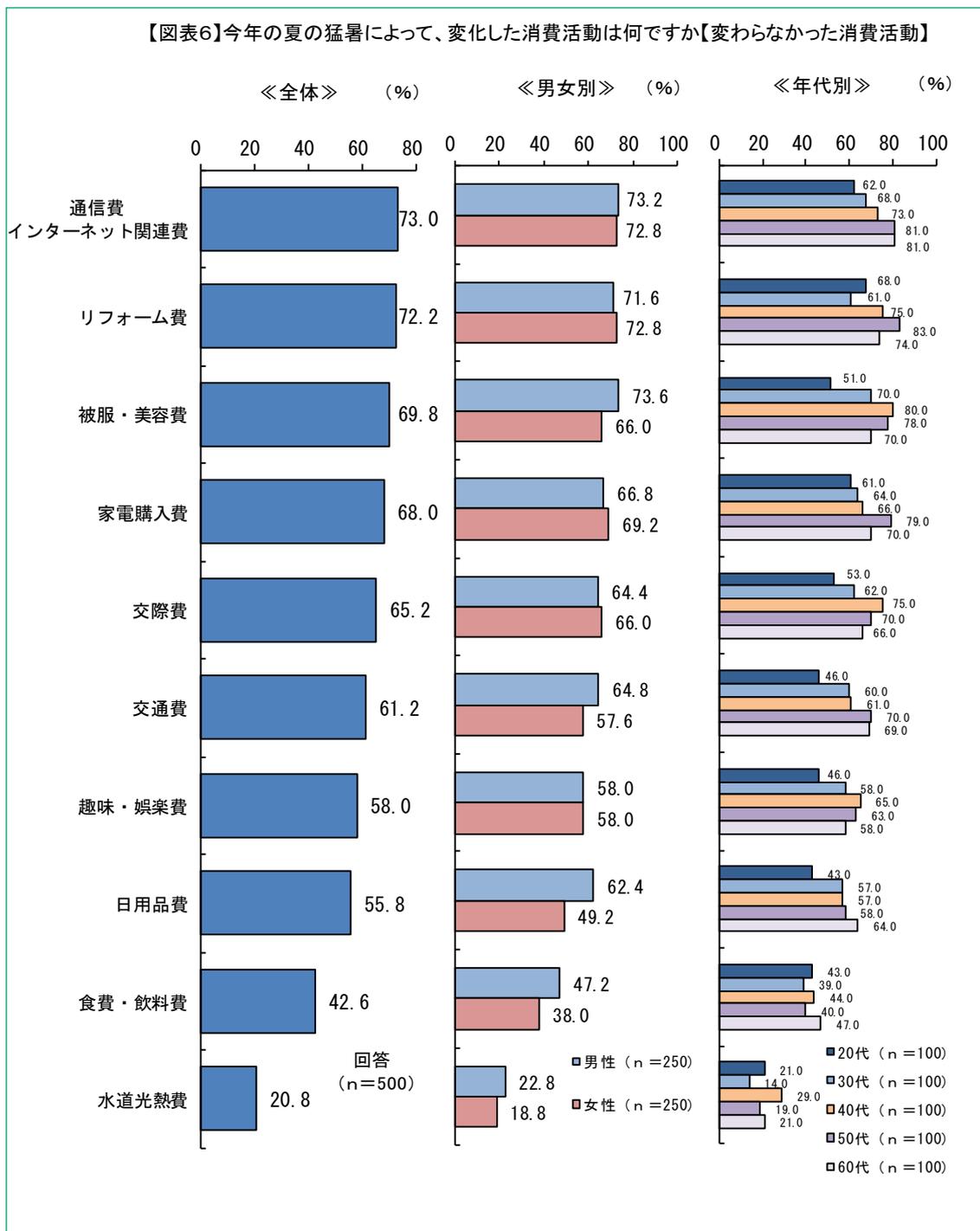


**Q4- (3) 今年の夏の猛暑によって、変化した消費活動は何ですか【変わらなかった消費活動】
(n=500)**

通信費・インターネット関連費、リフォーム費は7割超が変わらないと回答

今年の夏の猛暑によって変わらなかった消費活動について、**男女別**では、男性は「被服・美容費」(73.6%)、女性は「通信費・インターネット関連費」、「リフォーム費」(ともに 72.8%)が最も高い回答となった。

年代別では、20代(68.0%)、50代(83.0%)は「リフォーム費」、30代(70.0%)、40代(80.0%)は「被服・美容費」、60代(81.0%)は「通信費・インターネット関連費」が最も高い回答となった。「通信費・インターネット関連費」は年齢が上がるにつれて、変わらないと回答した割合が高かった。20代は変わらないと回答した割合が62.0%と他の年代に比べて低く、猛暑により、使用頻度などが変化した可能性も。また、50、60代は、多くの項目で変わらないと回答した一方、20代は変わらないと回答した割合が他の年代に比べて低い傾向がみられた。



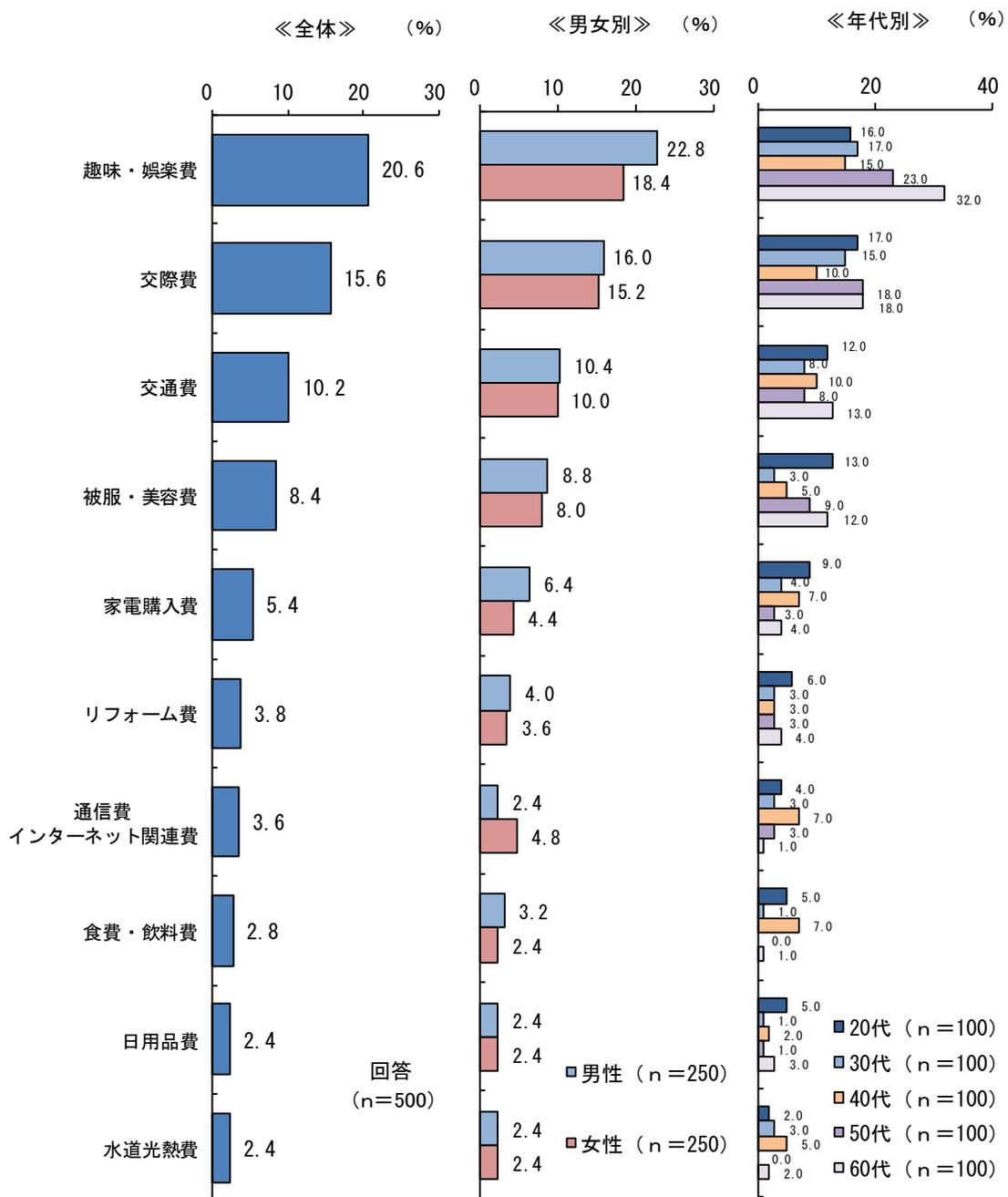
**Q4-（４）今年の夏の猛暑によって、変化した消費活動は何ですか【減った消費活動】
(n=500)**

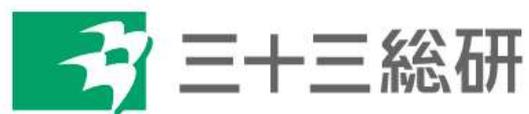
趣味・娯楽費は２割が減ったと回答

今年の夏の猛暑によって減った消費活動について、**男女別**では、男性(22.8%)、女性(18.4%)ともに「趣味・娯楽費」が最も高い回答となった。猛暑により、外出機会が減少し、趣味や娯楽に使う消費が減少した可能性が示唆された。

年代別では、20代(17.0%)は「交際費」、30代(17.0%)、40代(15.0%)、50代(23.0%)、60代(32.0%)は「趣味・娯楽費」が最も高い回答となった。「趣味・娯楽費」は年齢が高くなるにつれて、回答割合も高くなった。50代、60代は、他の年代より「趣味・娯楽費」や「交際費」などが減りやすく、猛暑により外出機会が減少した傾向がみられた。

【図表7】今年の夏の猛暑によって、変化した消費活動は何ですか【減った消費活動】





【本件に関するお問合せ】

株式会社三十三総研 調査部 古橋 健司
三重県四日市市西新地 10 番 16 号 第二富士ビル 4 階
TEL (059) 354-7102 E-mail : 33ir@33bank.co.jp